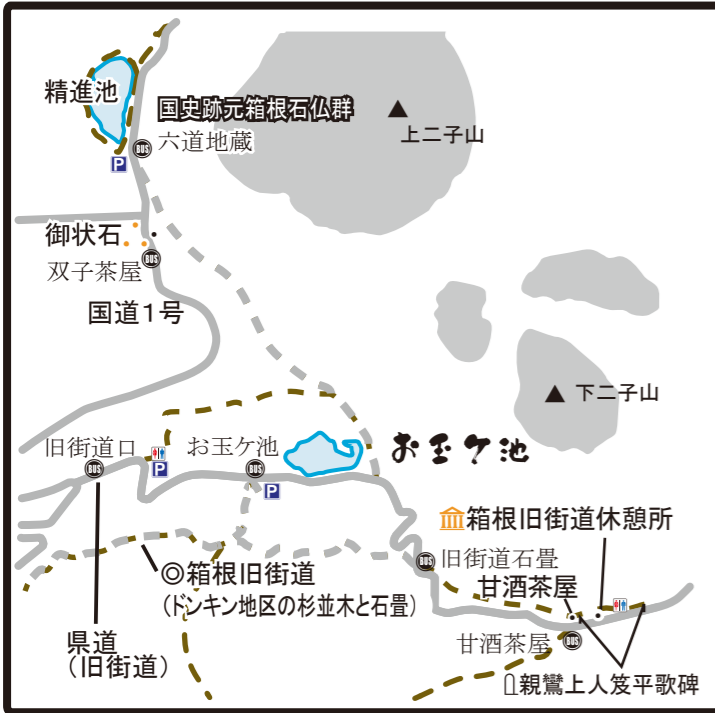


芦之湯・芦ノ湖 歴史散歩5

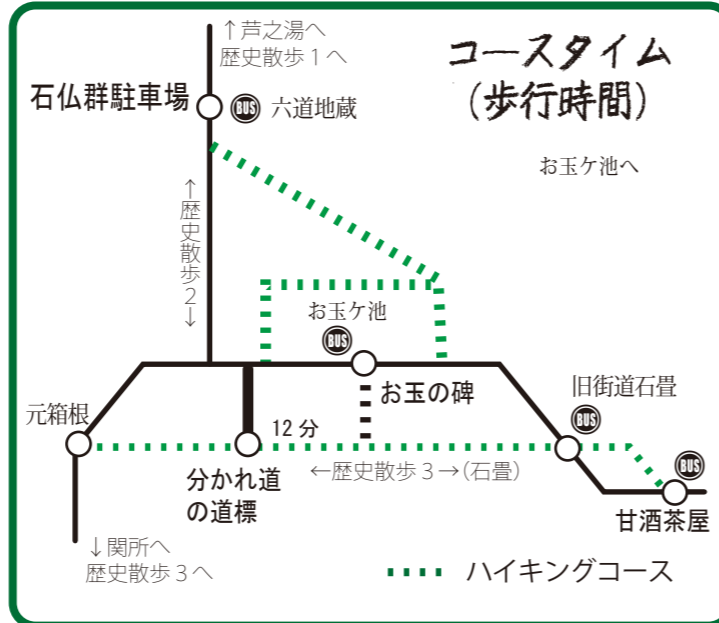


「時代をつなぐ道」コース

中世・湯坂路と

近世・箱根八里を結ぶ道

発行者 箱根町教育委員会生涯学習課
〒250-0311 箱根町湯本 266 TEL0460-85-7601
H23.5.29 初版 H27.5.1 改訂
R5.10.1 三訂版



精進池～お玉ヶ池～旧街道

このコースは、二子山のふもとにある精進池とお玉ヶ池を結ぶハイキングコースです。

あまり知られていないコースですが、精進池には、鎌倉時代の石仏群（国史跡元箱根石仏群）が、そしてお玉ヶ池の先には、江戸時代の街道（国史跡箱根旧街道）の石畳が近く、2つの時代の重要な史跡を体験することができます、タイムトンネルのような道です。

両方の出発点には、それぞれバス停や駐車場があるので、少し時間を割いて、のんびりとタイムトンネルをくぐってみてはいかがでしょうか。

本紙では、二つの池や二子山にまつわる昔話などを紹介します。

二子山の石

二子山のふもとにある箱根の石仏群にある石造物は、二子山から産出する安山岩を使用しています。安山岩は硬く加工しにくいのですが、鎌倉時代後期に鎌倉の極楽寺を開いた僧・忍性（にんしょう）が率いる石工集団によって加工することが出来るようになりました。西国から伝わった技術により、箱根の石仏群は造営されたのです。

時代は下って江戸時代、箱根八里の小田原から箱根までの石畳には、「二子石」が使われたことが分かっています。この石もまた、二子山の安山岩が使われました。当時の石は石畳バス停付近の石畳で見ることができます。

硬くて摩耗しにくい二子山の石は、時代を超えて風雪に耐え、今も箱根の歴史を雄弁に語ってくれる存在なのです。

コースの見どころ

精進池周辺 国史跡「元箱根石仏群」、
お玉ヶ池周辺 お玉が池の碑、
国史跡「箱根旧街道」、甘酒茶屋周辺の史跡など

「時代をつなぐ道」で伝説を感じる

アマノジャクと二子山

むかしむかし、箱根山がだいすきなアマノジャクという巨人がいました。しかし近くにそびえる富士山は箱根山よりも高く、人気があったのでアマノジャクはおもしろくありません。そこでアマノジャクは富士山を削って低くしてやろうと思い立ち、夜になると富士山を削っては岩を天秤棒で担いで運び、相模の海へ捨てていました。毎日続けていたところ、さすがのアマノジャクも疲れてきて晩酌していて出発が遅れてしまいました。はっと気づくと夜明け間近。見つからないと、運ぶ途中だった大きな岩をほうりだし、

いちもくさんで帰っていき

ました。こうして残された二つの岩は「二子山」となり、相模の海に捨てた岩は、伊豆諸島になったということです。



お玉ヶ池

精進池の大蛇

江戸時代のこと、江戸から芦之湯温泉へ湯治に来ていた庄司という男は、夜ごと湯治場に近い池で得意な尺八を吹いていると、どこから来たのか美女がその音を聴いているのに気づきました。やがて長い湯治場暮らしの庄司は、池の美女と恋仲になりました。

ある日、美女は自分が池に住む大蛇であることを明かし、やがて自分が天に帰るときに暴風雨となり、芦之湯の村は壊滅するだろうといい、庄司にはすぐに江戸へ帰るようにいいました。美女からは、このことを他言すると庄司の命はないといわれましたが、村人を裏切ることができず、事の一切を話しました。村人たちは話し合っただけで蛇の嫌いなクワや包丁、鍋など金目のものをことごとく池に投げ込みました。

大雨が止むと、池には大蛇の死骸が浮き上がり、また、たくさんのウロコが突き刺さった庄司の遺体も見つかったということです。

村人は村を救ってくれた庄司の名を取り、これ以後、池のことを「庄司池（精進池 = しょうじがいけ）」と呼ぶようになったそうです。

お玉ヶ池の名前の由来

お玉ヶ池は、長い間「齋池（なすながいけ）」と呼ばれていました。しかし、江戸時代に「お玉」という女の子が、関所破りで捕まって処刑されると、実は「お玉」は追っ手から逃れて池に身を投げたとか、処刑されたお玉の首をこの池で洗った、などの伝説が語り継がれるようになり、いつしか「お玉ヶ池」と呼ばれるようになりました。

なお、関所破りやお玉の話は、箱根関所資料館にて紹介していますので、ご覧ください。